

株式会社ラクト・ジャパン

銘柄コード:3139

2024年11月期 期末

2023年12月1日 ▶ 2024年11月30日

Contents

社長メッセージ	2
事業紹介	4
部門別事業概況	5
業績ハイライト	5
株主還元について	6
株主優待制度の変更について	6
株主メモ	6



社長 メッセージ

企業文化を受け継ぎながら、
アジアでの経験を糧に、次世代の成長を見据えた
さらなる企業価値向上に取り組めます。

1994年 4月 株式会社東食入社
1999年 3月 当社入社
2014年 4月 当社乳原料第一本部長
2016年 4月 当社執行役員乳原料第一本部長
2016年 9月 当社執行役員 兼 LACTO ASIA PTE.LTD. 社長
2020年 3月 当社上席執行役員
兼 LACTO ASIA PTE.LTD. 社長
2021年 2月 当社取締役 兼 LACTO ASIA PTE.LTD. 社長
2021年12月 当社取締役
2024年12月 当社代表取締役社長(現任)

ごあいさつ

このたび代表取締役社長に就任いたしました、小島新です。私は1999年に当社に入社し、以来営業職に長く従事してきました。また、2016年からの5年間はLACTO ASIA PTE.LTD.の社長を務め、海外事業の基盤構築に尽力しました。これまで当社で培ってきた経験を礎に、創業来のラクト・ジャパンらしさを継承しながら、さらなる企業価値向上に向けた経営に邁進していく所存です。

過去最高の業績を達成

2024年11月期(以下、当期)の国内事業は、業務用を中心に回復した食品原料需要を背景に、すべての部門において販売数量が前期比で増加しました。利益面では、国内の乳原料・チーズ部門で利益率の高い商品の比率が増加したことや、機能性食品原料部門においてプロテイン関連需要の高まりにより収益性の高いプロテイン原料の販売が順調に拡大したこと、アジア事業においても利益率が改善したこ

となどから前期比で大幅増益となりました。特に、チーズ製造販売部門において、前期まで国際相場の高騰の影響を受けていた原材料価格が低下したことに加え、製造量増加による生産効率改善の影響が顕著でした。

以上の結果、当期の売上高は1,709億7百万円(前期比7.9%増)となりました。また、営業利益は44億55百万円(前期比39.9%増)、経常利益は43億20百万円(前期比51.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は31億46百万円(前期比53.6%増)といずれも過去最高の業績となりました。



株式会社ラクト・ジャパン
代表取締役社長

小島 新

利益率改善や資本効率向上を目的として、 営業指標にROICを導入

当期は長期ビジョン「LACTO VISION 2032」の実現に向けた3か年の中期経営計画「NEXT-LJ 2025」の2期目でしたが、1年前倒しで計数目標を達成することができました。前期の事業環境を振り返ると、エネルギー価格の高騰や円安の進行を背景とした急激なインフレ、中国の景気低迷などの影響を受け、食品業界全体で販売数量が落ち込みました。当期は、その影響が色濃く残るなかでスタートしたにもかかわらず、善戦することができたと評価しています。

また、当社は利益率の改善や資本効率の向上を目的として、営業指標にROICを導入しました。人事評価にもROICを反映するため、正式な導入を前に導入の意図や考え方について社内への周知・浸透を行ったうえで、2025年11月期から現場での本格的な活用を開始しています。



LACTO ASIA PTE. LTD.の社員旅行
タイのサンクチュアリー・オブ・トゥールースにて

アジア駐在で得た経験を糧に、 複合型食品企業の実現を目指す

当社は、既存事業の強みを活かし、取扱商品と事業領域の2軸を拡大することによって、複合型食品企業の実現を目指しています。これまで培ってきた商材に対する専門性と強固な調達ネットワークを活かした提案力を引き続き強化するとともに、機能性食品原料の拡販と、アジアにおけるチーズ製造販売事業をキードライバーとして、製品ミックスや海外販路の拡大に力を入れていきます。

私はアジアに駐在した5年間で、インドネシアとフィリピンで現地法人を立ち上げるなど、アジアにおける乳製品販売事業の基盤構築に尽力しました。そのなかで、とりわけ大切にしていたことは、現地従業員と腹を割って話せる関係を築くことでした。例えば、終業後にローカルな屋台で一緒に食事をするなど、現地の文化を肌で感じながら、現地従業員との距離を縮めていきました。そのような積極的なコミュニケーションを通じて、現場の課題や目標を共有し、信頼関係を築くことで、モチベーションや組織力を高めていけることを実感することができました。また、私にとってかけがえない思い出にもなっています。

そのような経験があるからこそ、企業の持続的成長にとって「人」が何よりも重要であると確信しています。従業員一人ひとりの成長が当社の企業価値向上につながると考えており、成長機会を与えられる環境をつくるために、現場の課題を認識し、当社の目指すべき姿を従業員に共有できるよう、経営者としてできる限り現場に足を運び対話することをこれからも大切にしたいと思っています。



終わりに

ラクト・ジャパンは、日本全体の乳製品の需給確保において非常に重要な調整役を担っており、社会的価値の高い会社の一つであると自負しています。引き続きさらなる企業価値向上に精進してまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、さらなるご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

株式会社ラクト・ジャパン
代表取締役社長

小島 新

事業紹介

アジアで展開する二つの事業

日本市場で培った強みを活かし、アジアの食の広がり貢献

アジア事業

当社は1998年の創業直後、シンガポールに駐在員事務所を開設したことを皮切りにアジア各国に拠点を配置し、事業を展開してきました。現在、アジア地域においては6か国7か所に現地法人があり、主要な生乳生産地である欧州、オセアニア、米国から仕入れた乳原料を現地企業に販売しています。また、シンガポール、タイ、インドネシアにチーズの製造・加工

を行う自社工場を構えており、商社機能とメーカー機能の両方を有することは当社の強みの一つです。

近年、アジアでは食の欧米化が進み、乳製品市場は急速に拡大しています。当社の強みである多様な調達ネットワークと乳製品に対する専門性を活かし、現地企業が求める製品を開発・提案することで、アジアの食の広がり貢献しています。

アジア事業における強み

乳原料販売部門

当社がアジアに進出した当時は、アジア乳製品市場の黎明期といえる時代でした。日本の同業他社のほとんどが進出していない頃から、各地の食文化に寄り添いつつ原料供給を通じて乳製品の普及を支えてきたことにより、現在ではアジアにおいて確固たる販売ルートを確認しています。

アジアでも随一の調達ネットワークと日本国内の商売で培った提案力を強みとして、現地の食品メーカーおよび現地で開催する日系食品メーカーの求める品質の原料を調達・提案しています。

チーズ製造販売部門

2003年から、自社ブランドの業務用プロセスチーズの製造とナチュラル・シュレッドチーズの加工を自社工場で行い、販売しています。製造においては、主要な生乳生産地域に根差した調達ネットワークと、日本国内の商売で築いたサプライヤーとの強固な関係を活かし、高品質で価格競争力のある乳原料を厳選して使用しています。

また、2026年にはシンガポールの新工場が竣工予定であり、段階的に新工場へ移行する計画です。新工場稼働により、将来的には現工場の約3倍の製造量を目指します。



アジア市場における事業展開

- 1998年 11月 シンガポールに駐在員事務所を開設
- 1999年 6月 シンガポールに現地法人LACTO JAPAN (ASIA) PTE.LTD.を設立
- 2003年 12月 シンガポールに現地法人FOODTECH PRODUCTS PTE.LTD.を設立
チーズ製造販売事業を開始
製品のハラル認証を取得
- 2008年 7月 シンガポール現地法人2社を統合し、LACTO ASIA PTE.LTD.を設立
- 2010年 9月 マレーシアに現地法人LACTO ASIA (M) SDN.BHD.を設立
- 2012年 2月 インドネシアに現地資本と合併でPT. PACIFIC LACTO JAYAを設立
- 2013年 8月 タイに現地法人FOODTECH PRODUCTS(THAILAND) CO.,LTD.を設立
- 2013年 11月 中国に現地法人LACTO SHANGHAI CO.,LTD.を設立
- 2019年 9月 フィリピンに現地法人LACTO PHILIPPINES INC.を設立
- 2021年 6月 シンガポール工場が「FSSC22000」を取得
- 2021年 11月 インドネシアに現地法人PT. LACTO TRADING INDONESIAを設立
- 2026年 シンガポール新工場竣工(予定)

部門別事業概況

アジア事業・その他

売上高
297億95百万円
前期比 22.6%増

世界の主要産地から調達した乳製品原料をアジア地域で販売するとともに、自社ブランドのチーズの製造販売も行っています。

アジア事業（乳原料販売部門）

販売数量
39,728トン
前期比 6.6%増

売上高
215億84百万円
前期比 14.1%増

アジア事業（チーズ製造販売部門）

販売数量
5,422トン
前期比 12.3%増

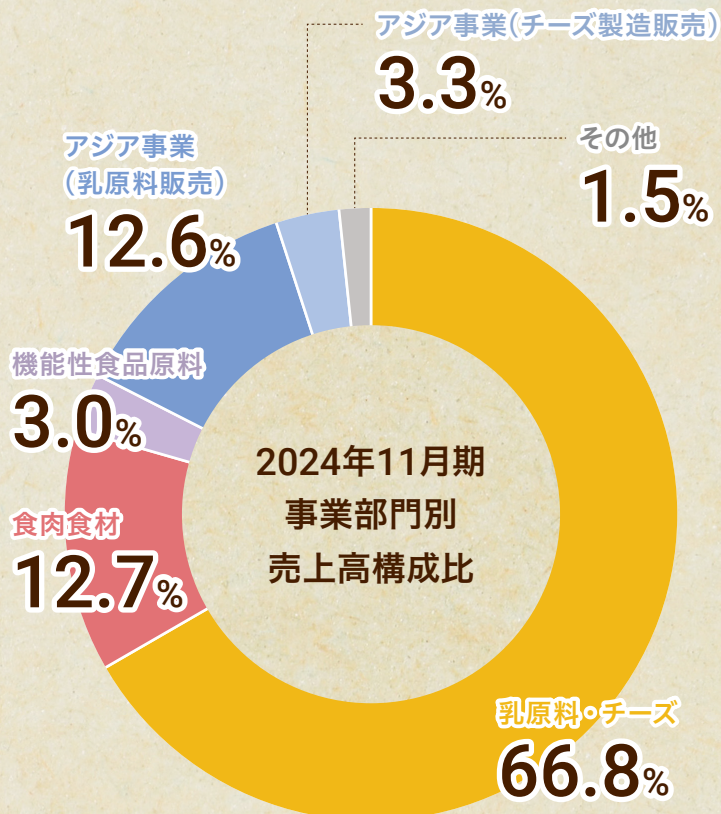
売上高
55億94百万円
前期比 15.9%増



より詳細な財務情報は、当社ホームページをご確認ください。

業績・財務

<https://www.lactojapan.com/ja/ir/finance.html>



乳原料・チーズ部門

販売数量
176,402トン
前期比 5.4%増

売上高
1,141億82百万円
前期比 2.1%増

海外から安全な乳原料やチーズを仕入れ、日本国内の乳業・菓子などの食品、飲料、飼料メーカーなどに販売しています。

食肉食材部門

販売数量
31,831トン
前期比 13.2%増

売上高
217億88百万円
前期比 19.3%増

海外から豚肉および食肉加工品を仕入れ、国内の食品メーカー、卸売会社などへ販売しています。

機能性食品原料部門

販売数量
4,199トン
前期比 49.6%増

売上高
51億41百万円
前期比 31.2%増

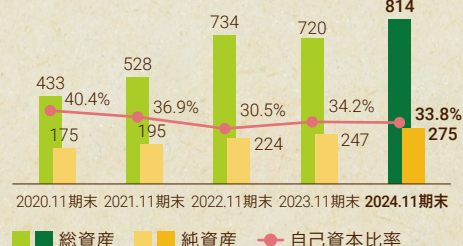
乳由来の高たんぱく原料をはじめとした機能性が訴求できる商品をスポーツニュートリション業界、食品業界などへ販売しています。

業績ハイライト

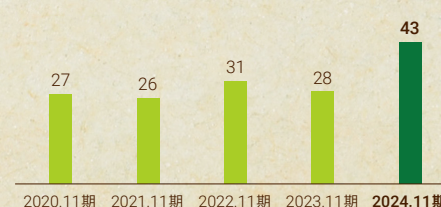
売上高
(億円)



総資産・純資産・自己資本比率
(億円)



経常利益
(億円)



1株当たり当期純利益
(円)



(注) 売上高、販売数量ともに数値の表示は端数切捨て、増減率は四捨五入しています。売上高構成比の数値は小数第二位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

株主還元について

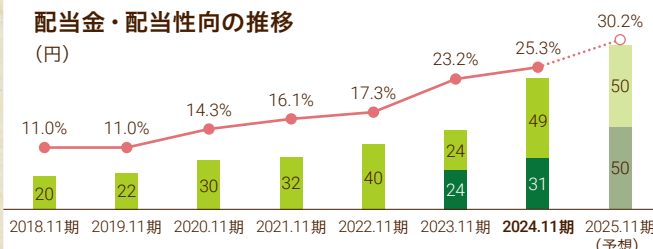
当社は、株主の皆さまに対する適切な利益還元を重要な経営課題の一つと位置付けており、剰余金の配当については、安定的かつ、継続的な配当を実施することを基本方針としています。

2024年11月期の年間配当金は、前期実績と比較し32円増加の80円となります。

当社業績や今後の成長戦略に向けた投資計画を総合的に勘案しつつ、引き続き配当性向の向上を目指してまいります。

配当金・配当性向の推移

(円)



■ 中間配当 ■ 期末配当 ● 配当性向

(注)当社は、2019年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。1株当たり配当金については、当該株式分割の影響を遡及修正した数値を記載しています。

株主優待制度の変更について

当社と株主さまとの絆をさらに深め、当社株式を中長期にわたり継続的に保有していただくことを目的に、優待内容の見直しを行い、2025年11月30日の基準日より株主優待制度を変更することとしました。詳細は当社ホームページをご確認ください。



株主優待制度の変更に関するお知らせ

https://www.lactojapan.com/ja/ir/news/auto_20241223542890/pdfFile.pdf

アンケートご協力をお願い

右記のURLあるいは二次元コードをお読み取りいただき、アンケートにご協力をお願いします。アンケートにご回答いただいた株主さまのなかから抽選で、**QUOカード1,000円分を30名さまにプレゼント**いたします。(当選者の発表は、QUOカードの発送をもって代えさせていただきます。)

アンケート締切

2025年
3月31日



ご回答はこちらから

<https://forms.office.com/r/VRwpqcAriK>

※アンケートは、WEB回答のみとさせていただきます。

質問
内容

Q1 代表取締役社長 小島に期待することをお聞かせください。

Q2 弊社のIR活動についてご意見・ご要望などがございましたら、お聞かせください。

株主メモ

事業年度 12月1日から翌年11月30日まで

基準日 11月30日
そのほか必要がある場合は、あらかじめ公示いたします。

単元株式数 100株

株主名簿管理人
および特別口座の
口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

〒100-8233
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル)

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記の特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。



〒103-0027
東京都中央区日本橋二丁目11番2号
太陽生命日本橋ビル22F



より詳細なIR情報は、当社ホームページをご確認ください。

株主・投資家情報

<https://www.lactojapan.com/ja/ir.html>